

# 社会科学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 1校時  
児童 5年生  
授業者  
場所

## 1 単元名 「食料生産を支える人々～これからの食料生産～」

## 2 単元について

### (1) 単元観

本単元は、第2大単元「食料生産を支える人々」において、中単元「1 農業のさかんな地域をたずねて」「2 水産業のさかんな地域をたずねて」に次いで学習する。

中単元「1 農業のさかんな地域をたずねて」では、日本の農業について、稲作に取り組む新潟県南魚沼市の米づくり農家の事例を取り上げ、生産の工夫や努力、なやみや願いについて調べ、自然環境や消費者とのかかわりについて考えてきた。

また、中単元「2 水産業のさかんな地域をたずねて」では、とる漁業について、北海道根室市のさんま漁に携わる人たちを取り上げ、漁師や加工工場、消費地へ運ぶ人たちの工夫や努力、なやみや願いについて調べ、生産の様子や運輸などの費用について理解を深めた。育てる漁業については、鹿児島県垂水市のかんぱちの養殖漁業や栽培漁業に携わる人たちを取り上げ、環境保全に取り組みながら水産業を営む様子を調べ、食料生産と自分たちの食生活のかかわりについて考えてきた。

本単元では、これまで学習してきた日本の米づくりや水産業の発展の裏に、生産量や働く人の減少、環境への影響や安全性、低自給率などの問題があることを理解し、日本のこれからの食料生産のあり方について、自分なりの考えが持てるようにしたい。そのため、現在の日本が安定した食料を確保していくために必要不可欠となっている「輸入」について具体的に調べ、生産者と消費者の両方の立場に立って考えることで、自分自身の食生活へどのような影響があるのかを捉えさせたい。児童にとって身近な食生活を取り上げることにより、食料生産のしくみを正しく理解し、自分自身と社会とのかかわりを意識することで、これからの社会を形成する担い手としての自覚を育てたい。

### (2) 児童観

# 省 略

## 3 単元目標

日本の食料生産が抱えている問題を調べ、食料を安定して確保する必要性やこれからの食料生産のあり方について、自分の考えを持つことができる。

## 4 評価規準及び道徳的学び

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	道徳的学び
ア日本の食料生産が抱えている問題の意欲的に追究し、これからの食料生産や食生活のあり方について関心を考えている。	ア日本の食料生産が抱えている問題について調べ、これからの食料生産のあり方や安定して食料を確保していくうえでの不安な点や大切な点について考えたり、ノートに表現したりしている。	ア食料の輸入量の変化や自給率の低さなど、日本の食料生産の現状や課題について、グラフや写真を通して適切に読み取っている。	ア日本の食料生産の現状や課題を捉え、食料を安定して確保していくことの大切さを理解している。	4-(7) 郷土愛・愛国心・日本の第一次産業で働く人たちの工夫や努力、願いについて考え、国内の食料生産の良さに気付くことができる。

## 5 単元の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<p>・身近な食べ物の自給率をグラフから調べたり、食料の輸入が増えた理由を既習内容や資料から読み取ったりしながら、食料自給率の低さについて考え、学習問題を立てて予想したり調べる計画を立てる。</p> <p><b>○わたしたちが安心・安全な食料を安定して確保し続けていくために、これからの食料生産をどのように進めていけばよいのだろうか。(学習問題②)</b></p>	<p>□主な国の食料自給率についてのグラフを提示し、比較しながら読み取る活動を通して、問題点に気付くようにする。</p> <p>□「輸入」が増えることで、日本の第一次産業や自分達の食生活にどのような影響があるのか、普段の身近な食生活から予想することで、問題を自分事として捉えることができるようにする。</p>	<p>関ア</p> <p>技ア</p>
2	<p>・食料の「輸入」が増えることでどのような影響があるのか、思考スキル・ツールを活用し、グラフや写真など資料を読み取ってまとめる。</p>	<p>□これまで学習してきた「生産者にとって」や自分たち「消費者にとって」という視点で、どのような影響があるのかなど、調べる視点を整理することで、問題点や解決策について考えることができるようにする。</p>	技ア
3 本 時	<p>・前時で調べたことやこれまで学習してきたことをもとに「輸入」について考え、食料生産に携わる人々の工夫や努力、身近な食生活を意識しながら話し合い、食料を安定して確保のために大切なことや心配なことについてまとめ、自分なりの考えを持つ。</p>	<p>□調べた内容をもとに生産者と消費者の立場から「輸入」のメリットやデメリットを整理し、問題を多面的に捉えることで、これからの日本の食料生産のあり方や自分達の食生活を見直すことができるようにする。</p>	思ア
4	<p>・これまでの学習をふり振り返りながら、自分自身の食生活やこれからの食料生産について、自分なりの考えを簡単な文章にまとめ、交流する。</p> <p><b>○国内で生産される食料の良さに気付き、地産地消の考え方などから、自分自身の食生活を見つめ直そうとする姿。(問題解決②の解決)</b></p>	<p>□これまで学習してきたことを根拠にししながら、自分の考えをまとめて交流する活動を通して、より多面的な視点で、自分自身の食生活を見直すことができるようにする。</p>	知ア

## 6 小中連携の視点

	小学校 5 学年	中学校 学年
目指す 子供の姿	<p>・日本の食料生産を支えている第一次産業の様子に関心を持ち、様々な立場からこれからの食料生産のあり方について追究する姿</p>	
手立ての 視点	<p>・産業の発展の裏にある問題に着目し、新たな視点で学習問題を立て、交流を通して解決に向けた追究の場の設定</p>	

7 研究とのかかわり

<p>単元 の 序盤</p>	<p><b>I 状況の興味の喚起・維持を促すため</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からよく食べている農産物や水産物の産地を調べ、白地図にまとめたり、価格の妥当性について考えたりする活動を通して、生産者やそれらを消費地へ運んでいる人たちの工夫や努力、なやみや願いについて関心を持ち、学習問題の解決に向けた、見通しを持つことができるようにする。</li> </ul>	<p><b>I-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容をもとに、それぞれの地域の産業と自然条件との深いかかわりを意識したり、消費者としての経験をもとに、自分自身の食生活をふりかえったりしながら、調べる対象や具体的な視点を明確にすることで、意欲的に学習問題①を解決しようとする姿を引き出していく。</li> </ul>
<p>○米づくりや水産業のさかんな地域では、どのようなくふうや努力、なやみや願い持って産業を営んでいるのだろう。 (学習問題 ①)</p>		
<p><b>①社会的事象と出会いから問題意識や学習の見通しを持つ子供</b></p>		
<p>単元 の 中盤</p>	<p><b>II 個人的興味の出現を促すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例地として①新潟県南魚沼市の米づくりの様子②北海道根室市のさんま漁の様子③鹿児島県垂水市の養殖漁業の様子についてどのような工夫や努力、なやみや願いなどがあるか調べる計画を立てる。</li> <li>・その時の学習課題に合った思考スキル・ツールを提示し、それらを活用して生産や運輸の様子をまとめることで、理解を深めることができるようにする。</li> </ul>	<p><b>II-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考スキル・ツールを活用し、それぞれの事例地で営まれている産業の様子についてまとめ、工夫や努力、またその裏で抱えているなやみや問題について、普段の食生活と関連付けて話し合うことで、日本の食料生産の現状を俯瞰して捉えられるようにする。</li> <li>・ゲストティーチャーを招き、水産業の実際についてより詳しく知る機会を設け、生産の様子について具体的な理解へとつなげる。</li> </ul>
<p><b>②1つ1つの事実を関連付けながら概念化し、社会的な見方や考え方を持つ子供</b></p>		
<p>単元 の 終盤</p>	<p>○わたしたちが安心・安全な食料を安定して確保し続けていくために、これからの食料生産をどのように進めていけばよいのだろうか。 (学習問題 ②)</p>	
<p><b>III 発達した個人的興味の出現を促すために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学習してきた日本の米づくりや水産業の発展の裏に、生産量や働く人の減少、環境への影響、安全性、低自給率などの問題があることを理解し、日本のこれからの食料生産のあり方について、自分なりの考えを持つために、輸入や生産、消費の工夫について詳しく調べる計画を立てる。</li> </ul>	<p><b>III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習をふり振り返りながら、様々な立場に立って、自分自身の食生活やこれからの食料生産のあり方について、根拠を明確にしながら簡単な文章にまとめる。</li> <li>・考えを発表し合いながら、様々な視点で学習問題②に対する考えを深め、社会的な見方や考え方を成長させることができるようにする。</li> </ul>	
<p><b>③社会的な見方や考え方を成長させる子供</b></p>		

8 本時について（3/4時間目）

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点**III-(1)**にかかわって、手立てを講じていくことになる。

手立て**III-(1)**では、前時で生まれた新たな学習問題を解決するために、日本の「輸入」の現状についてそれぞれの視点で調べたことを発表し合い、メリットとデメリットについて考える。その際「安全性の観点から必要ない」「安いから必要だ」など、1つの側面から考えるのではなく、生産量の低下を補っている現状や、価格競争と第一次産業の従事者の減少とのかかわりを考えるなど、多面的に問題を捉え、自分自身の食生活やこれからの食料生産について、自分の考えを持てるようにしたい。

(2) 本時の目標

日本の「輸入」の現状について調べたことを交流し、日本の食料生産が抱える問題について多面的に捉え、これからの食料生産のあり方について自分事として考えることができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 <b>肯</b> 自己肯定感	!評価! 個に応じた指導 (△発展的 ▲補充的)
○前時の学習内容確かめる。 学習問題を確かめる。	□掲示物を活用して、これまでの学習内容・学習問題②を確認する。	
○わたしたちが安心・安全な食料を安定して確保し続けていくために、これからの食料生産をどのように進めていけばよいのだろうか。(学習問題②)		
○本時の学習課題を知る。 <b>輸入のメリットとデメリットについて考えよう!!</b>	□学習課題を提示する。	
○調べてきたことをグループで交流する。 ・意見を短冊にまとめながら、考えを整理していく。 ・班ごとに意見を発表する。	□グループごとの考えを板書するに整理する。	△問題の裏や背景を考えることでメリットでもデメリットでもない事象に気付かせる。
○全体交流を通して「輸入」についての考えをまとめる。 ◎食の多様性 量的な安定 低価格 ●品質に不安 届かないことも 環境破壊してまで… 価格競争 農家や漁師さんの数が…	□児童の発言を「輸入」についてのメリット・デメリットに分類しながら板書する。立場が変わるとメリットがデメリットになり、またその逆の事例もあることを紹介する。Ⅲ-(1)	▲「自分が米づくりの農家なら」や「自分が漁師なら」という視点で出てきた意見について考えを持てるようにする。
○まとめた意見と自分自身の食生活で大切にしていることを照らし合わせてこれからの食料生産のあり方を追究する。 ・なにより安心・安全が第一 ・でも価格も安い方がいいな ・やっぱりおいしいものを食べたいな ・環境も大切だ! →そこで、それぞれ立場から、具体策について既習内容を参考に考えてみると… ☆安心=トレーサビリティ等 ☆安い=共同作業、大規模な生産等 ☆おいしい=品種改良 新鮮さを保つ等 ☆環境=農薬を使わない 育てる漁業等	□これからの食料生産のあり方について問い、既習内容を根拠にして話し合うことができるようにする。Ⅲ-(1)  □既習内容を想起し、生産者の工夫や願いに注目することで、国内の食料のよさに気付くことができるようにする。Ⅲ-(1)  <b>肯</b> 様々な立場から自分の考えを持つことができたことを認め、称賛する。	【思ア】 発言・ノート
○ふりかえりをする。 国内の産業の取組や品物の良さに気づき、自分の食生活を見つめ直す。	□板書をもとに本時で考えたことや話し合ったことをふりかえる。	
○次回の学習内容を知る。 ・自分の立場を決めて、学習してきたことを根拠にしなが、これからの食料生産のあり方について短い文章にまとめ、発表・交流する。	□文章の具体例を紹介し、内容や文章構成などについて見通しを持てるようにする。	